

Ⅱ 研究の経過

1 昭和53年度の研究活動と経過

1 学期（研究視点の共通理解と、教育内容選定の基本的構えの共通理解）

- 共同研究体制、3年間同一テーマで、幼小中高等部一貫した教育内容に関する研究をするという研究の進め方と研究の視点を共通理解。
- 研究テーマの方向を「積極的に社会に参加しうる人間の育成」
— 幼・小・中・高等部一貫した教育内容の精選と構造化についての共通理解 —
- 研究授業2回、教育内容選定の視点を、何におけば良いかを実践を通して研究。
- 教育内容選定の視点を自立化、社会化、表現化、職業化におく事にし、各分野の目標、分野間のかかわりを、特に表現化を中心に行う。表現化の共通理解難航。
- 各分野は交錯した面があるが、特に重点的な目標を定め、各分野の視点を明確にする。
- 4グループに分れ、各分野の教育内容選定の作業にかかる。

2 学期（教育内容の検討と発達段階に応じた内容配列）

- 各分野から出された教育内容の逐次審議。社会自立の考え方、高等部のあり方、表現化の目標等の問題点に当面して難航。
- 今迄の経過からテーマを再検討 「表現化に視点を当てた教育課程の編成」
— 学習内容の検討 — と決定
- 発達段階の決定。単に知能年齢だけでなく、生活年齢を加味した考え方をする。1～6の各段階に段階目標を決定。分野目標も段階に合わせて決定する。
- 段階目標、分野の段階目標に合わせて、教育内容を精選し配列をはかる。各分野20項目程度のステップで考える。
- 研究授業6回、教育内容と指導案形式を実践を通して検討。

3 学期（教育内容の決定と、段階別の配列完成）

- 教育内容の重複、移行を分野間で検討。発達段階のおさえも兼ねて、詳細に検討。
- 4分野の内容が発達段階にに応じているか、学部で再検討。段階別教育内容表完成。
- 決定した教育内容を年間指導計画として展開するための教育内容配当の形式決定。
- 年間指導計画作成のための、教育内容年間配当の基本的な考え方を各部で検討。全体会で、各部の目標にてらして、各部の独自性を出す事に決定。
- 新学期に間に合うように、教育内容年間配当表を各段階毎に、それに基づいた月別学習指導計

画（４月分）を作る事に決定。

- 研究授業２回。表現化に視点をあてた指導について、実践を通して検討。

２ 本年度の取り組み

- 「表現化に視点をあてた教育課程の編成」のテーマのもとに、昨年に引きつづき、共同の研究体制で研究を進めることを確認。
- 公開の研究発表会を１１月に計画することを決定、それを目ざして研究を進めることを確認。
- 昭和５３年度の経過から本年度の研究テーマを決定

「表現化に視点をあてた教育課程の編成」

実践過程をふまえた ― 社会的自立を目ざす学習指導の研究 ―

以上のことを確認、決定して研究に取り組むこととした。

実践過程をふまえたというテーマの前提に即して学習を展開するために、六つの段階の年間配当表を各段階ごとに作成。そして、その教育内容年間配当表に基づいた月別学習指導計画を各学年の児童・生徒の実態をふまえて作成することにした。

授業研究会をとおして、表現化について確認したり、表現活動の過程、表現化に視点をあてた学習指導などについて追求していくことにし、研究授業を小学部、中学部、高等部と行った。